富山）「得たもの伝えたい」　選抜で審判した大石さん

2015年4月10日03時00分

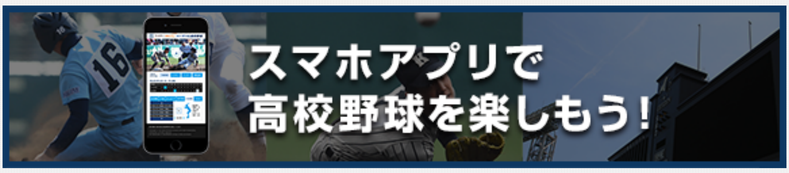
0 0 0

春の選抜高校野球大会は敦賀気比（福井）が北陸勢初の優勝を飾り、幕を閉じた。県勢は出場を逃したが、審判委員として県高野連から派遣された砺波市職員の大石哲也さん（４６）が、３試合でジャッジを担った。甲子園に初めて立って全国レベルの技術を肌で感じ、「得たものを仲間に伝えたい」と話す。

「メチャクチャ緊張した」。最初の出番は３月２１日の大会第１日。第２試合の大阪桐蔭ー東海大菅生（東京）戦で、二塁塁審としてグラウンドに立った。県の審判が選抜に派遣されるのは７年ぶり。自身は２０１０年に社会人野球の日本選手権で全国舞台を経験していたが、甲子園では「平常心でいつも通り出来るか不安だった」。それでも、冷静に判定を下し、その後の２試合でも一塁、三塁の塁審を務めた。

「試合の細かい記憶はない。一つ一つのプレーに必死だったんでしょうね」と振り返る。しかし、バックネット裏や内野席からの温かい声援、スタンドの盛り上がりの大きさは印象に残り、「ここで野球できる子たちは楽しいだろうな」と思った。

無料登録して続きを読む
ログインして続きを読む



新聞宅配申し込み
デジタル申し込み

関連リンク

朝日新聞社は高校野球を応援しています。
Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.